

精神科医療と高齢者医療による連携強化



白老高齢者複合施設



北海道メンタルケアセンターロビーホール



院長 石川 幹雄

1976年札幌医科大学卒業。札幌医大病院精神科助手、名寄市立総合病院神経精神科医長などの後、2004年から道央佐藤病院長。精神保健指定医、精神神経学会認定専門医・指導医。医学博士。

開院61年を迎えた道央佐藤病院は、日胆地域の精神科医療の基幹的な役割を果たす。特に認知症の分野では、先駆的な取り組みを行い、重度認知症疾患治療棟と認知症疾患デイケアは、北海道第一号の認可を受けた。また、認知症に関する地域の専門窓口として、北海道の指定を受けた認知症疾患医療センターでは、認知症に関する相談や鑑別診断、介護施設や関係機関との連携・調整などを行っている。

近年、複雑化する社会情勢とともに、精神疾患も多様化し患者数は増加。中でも、うつ病患者は増加が著しく、石川院長は「社会一般はいまだに精神疾患について偏見を持っているのが現状。偏見が精神科受診を妨げ、さらに社会復帰・就労などの社会参加を拒んでいる」と話す。うつ病は現代社会では身近に存在する病気であり一般の病気と同じく早期発見・治療により回復の可能性が高いことから「啓発により予防と早期受診をすすめることが重要」と強調した。

また、高齢者が増え高齢化が進展していく中で、医療機関が長期療養を要する高齢者の受け皿とな

るのは難しく、福祉施設では入居者の疾病に対する医療面のサポートが必要と指摘。医療と福祉の連携を、法人として白老高齢者複合施設を開設し、グループ法人が開設するふれんど高齢者複合施設 I・II・IIIと介護付き有料老人ホームの丘の協力の医療機関を務め実践する。

外来専門の北海道メンタルケアセンターは「より専門性の高い精神科医療」を目指し、曜日により医師4〜7人体制で児童から高齢者まで、幅広い年齢層に対応。臨床心理士12人・精神保健福祉士19人・作業療法士8人の専門スタッフを配置。精神科一般をはじめめアルコール依存症や認知症、思春期、女性、高齢者専用のデイケアも実施。外来精神科医療機関としては道内でもあまり例を見ない規模である。地域で生活する精神障がい者を支えるためには「医・職・住」が必要と説き、障がい者相談支援センターや訪問看護ステーションを開設、生活サポートセンターでは専門相談員が適切にアドバイス。就労のための自立支援施設や住居を複数開設し充実していることも、道央佐藤病院の大きな特徴となっている。

道央佐藤病院 / 精神科・心療内科・内科・児童・思春期精神科・老年精神科
北海道メンタルケアセンター / 精神科・心療内科・内科・児童・思春期精神科・老年精神科

医療法人社団玄洋会
道央佐藤病院

苫小牧市樽前234 ☎(0144)67-0236
ホームページ <http://www.douousatou.or.jp>

医療法人社団玄洋会
北海道メンタルケアセンター

苫小牧市若草町5丁目1番5号 ☎(0144)34-2969
ホームページ <http://www.wakakusa-s.or.jp>

診療時間 /
平日 / 9:00~17:00
夜間診療:毎週水 / 17:30~19:30
休診日 / 日・祝日